

	<b>鈴木 紹夫氏を偲ぶ</b> <b>SCE・Net 木原重光</b>	E-130 発行日 2020年 8月12日
--	---	--------------------------------

鈴木さんとは 1982 年に化学工学会装置材料研究会（現在の部会）と中国化学工学会の装置材料技術交流会で約 3 週間中国を訪問した際に、初めて親しくさせていただきました。鈴木さんは、その当時、味の素の腐食研究者として、すでに学会で有名な腐食研究者で、私はこの交流会の間に鈴木さんから腐食についていろいろ教えていただきました。

その時代、中国人は全員が黒い人民服を着ていて、文化大革命で研究などができなかつた時代が終わった直後で、多くの技術者が技術情報に飢えていたという印象でした。太湖の湖畔の大学の寮を改造したホテルに缶詰めになって、5 日間交流会は続きました。夕方まで講演会を行った後、夕食後に中国の研究者が日本人の部屋に来て、個人的な情報交換が行われました。実際のプラントの設備管理を行っていた鈴木さんは大人気で部屋は大盛況でした。日中技術交流会は、1992 年にも行われ、ここでも鈴木さんとご一緒させていただき、82 年から 10 年間の中国の変貌に驚いたものでした。

1990 年代後半に日本の腐食防食協会（現在の腐食防食学会）が、フィリピンで腐食と対策についての講習会を実施しました。鈴木さんは 2 代目の講師で、3 年

間続けて 5 日間/年の講義をされました。私は、4 代目の講師として 1997-8 年に講義をしましたが、フィリピンでどのような内容が要求されるかなど鈴木さんに親切なご指導をいただきました。

2003-2006 年に“失敗知識データベース”という世界中のプラント、設備、構造物における破損事例を集めて、そこから教訓を得るためのデータベースを開発する国のプロジェクト（畑村洋太郎委員長(元東大教授)）があり、すでに味の素の OB となられていた鈴木さんは材料に起因する破損事例の収集解析を担当されました。

2004 年、小生は材料のコンサルティングを行う（株）ベストマテリアを設立しました。鈴木さんにはいろいろご協力をいただきました。エンジニアリング振興協会の保温材下腐食（CUI）の検査方法開発プロジェクトには、ベストマテリアの囑託として参加していただき、ガイドラインの作成に貢献されました。

その頃、鈴木さんは SCE-Net の装置材料研究会を立ち上げ、私も誘っていただき現在の研究会につながっています。綜研化学殿の会議室をお借りして、年 3-4 回の研究会を開催し、夕方から高田馬場駅近くの居酒屋（季節には牡蠣専門店）で懇親会を行い、楽しい研究会でした。昨年 3 月 18 日の研究会でお会いして、飲み会で楽しい時間をご一緒させていただきました。5 月 27 日の研究会はご欠席で、秋に体調を崩されたとお聞きしておりましたが、結果的に 3 月 18 日にお会いしたのが最後になってしまいました。

本年3月(株)ベストマテリアは、NEDOプロジェクトを受託しました。その内容は、プラントメンテナンスにおいて、どのような損傷が起きるかを判断する熟練専門家の知識をAIにするものです。ディープラーニングの教師用材料として鈴木さんが尽力された前述の損傷事例を使うことにしました。この話を鈴木さんに聞いてもらい、AI開発に協力していただきたかったのですが、願いは叶いませんでした。プロジェクトは2021年度で終了します。その時に、「鈴木さんの頭脳の一部をAI化しました」と天国の鈴木さんに報告したいと思います。

鈴木さんのご冥福を心からお祈りいたします。